

## 予算申請機器特集

ピペット・チップ・マイクロチューブの他にも、エッペンドルフは実験機器をご提供しています。いずれも皆様の研究・実験を円滑に進めるための特長を備えた製品でワークフローをサポートする、幅広いラインナップの製品を揃えています。本稿では、培養装置とディープフリーザーをご紹介します。

最も一般的な培養装置の **CO<sub>2</sub> インキュベーター**だけでなく、浮遊系細胞用の **CO<sub>2</sub> インキュベーターシェーカー**、さらに、歴史と実績ある **菌体培養シェーカー**がごございます。**ディープフリーザー**はノンフロン冷媒を採用し、740 L の大容量ながら 100 V で使用できる特長を持っています。その他の装置や詳細については弊社予算申請カタログをご覧ください。



予算申請  
カタログ PDF



### 培養機器 (動物細胞・菌体)



#### CO<sub>2</sub> インキュベーター CellXpert C170/i

HEPAフィルター・ガス循環用のファン・庫内表面の凹凸を全て無くしました。洗浄が簡単・確実に行えるだけでなく、培地の蒸発を気にせず全てのスペースを使用することができます。

- > ファンレス・シームレスチャンバー
- > 自然対流による均一性の高い庫内環境
- > 高温滅菌機能付
- > 本体 2 台積み重ね可能



#### 浮遊細胞培養 CO<sub>2</sub> インキュベーターシェーカー S41i

CO<sub>2</sub> インキュベーターの中にシェーカーを入れて使用していませんか？ S41i は HEK 293 細胞など浮遊系の動物細胞培養に必要な二つの機能「CO<sub>2</sub> コントロール」と「シェーキング」を一台に搭載したモデルです。

- > 湿気によるシェーキング駆動部の劣化がありません
- > 駆動部の発する熱が庫内環境を乱すことはありません
- > 高温滅菌機能付



#### 菌体培養シェーカー Innova S44i

世界のトップブランド Innova シリーズの最新モデルです。大容量・静穏性・安定性を維持しつつ、さらに操作性を高めた特長を持っています。

- > 1 L フラスコを 20 本できるプラットフォームサイズ
- > 高負荷に耐え、動作音の小さい独自のドライブユニット
- > ワンタッチ引き出し式のプラットフォームで全てのサンプルへのアクセスが容易

## -80 °C ディープフリーザー



### CryoCube F740hi

エッペンドルフのディープフリーザーは世界中のユーザー様に愛されている -80 °C フリーザーです。

その最新モデル CryoCube F740hi は、740 L の大容量ながら 100 V で使用可能。冷媒はノンフロン系のハイドロカーボン系を採用。タッチパネル式ディスプレイでストレスなく操作いただけます。

- > 740 L、ノンフロン冷媒、庫内 3 コンパートメント仕様
- > 100 V、15 A 電源で使用可能
- > タッチパネル式ディスプレイ
- > 庫内温度、扉開閉履歴等を自動保存。エクスポート可能
- > ディスプレイ上ワンタッチで扉を施錠・解錠

### 識別コード付きチューブ & 読み取り装置

貴重なサンプルを凍結保存するときサンプルの詳細情報を記録しておくことは重要です。エッペンドルフのクライオストレージチューブとラックスキャンを使用することで、PC 内に情報を保存しておくことができ、次回の使用時に困ることはありません。



クライオストレージチューブ & ラックスキャンのカタログ PDF



## as valuable as Products

エッペンドルフでは良い製品をご提供するだけでなく、安心してご使用いただくためのアフターサポートプラン、お得なキャンペーン情報などをお届けする製品登録 (ポイントを使って景品と交換も可能)、さらに、製品を正しくご使用いただくための無料ウェビナーを行っております。

### アフターサポートプラン



突然の不具合で重要な実験を止めないために、信頼できる正確なデータを得るために、修理より予防保全を。点検、IQ、OQを承ります。年間保守契約や延長保証もご契約可能です。



詳しくはこちら

### 製品登録



機器やピペットを登録すると、ポイントが貯まります。チューブなど弊社製品や、Amazon ギフト券などの景品に交換できます。キャンペーンや新製品などお得な情報もお届けします。



詳しくはこちら

### ウェビナー



正しいマイクロピペットの使い方

7月15日(木) 14:00 - 14:30

マイクロピペットは便利なツールですが、なんとなく使っていませんか? 本ウェビナーでは精度を上げるための正しいマイクロピペットの使い方や、ピペティング前の確認点等をご紹介します。



詳細・参加登録はこちら